

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2372400537		
法人名	医療法人メイライ7		
事業所名	グループホームひいらぎ 西ユニット		
所在地	半田市有脇町13丁目91		
自己評価作成日	令和元年9月9日	評価結果市町村受理日	令和2年1月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ひいらぎは「家」にこだわって、木のぬくもり、ゆったりとした空間のなかで家族のように利用者さんと生活を共にし、笑いの絶えない家庭(一つの家で生活する家族の集まり)を作りたいと努力しています。それぞれの利用者さんの家族との絆も大切に守り、地域の方々が気楽に遊びにきて下さる雰囲気も作っていきたくと努力も致します。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhiw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&Jigyo_syoCd=2372400537-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中区三本松町13番19号		
訪問調査日	令和1年10月4日		

当ホームは、両ユニットが平面でつながっていることで、職員間で日常的に情報交換の機会をつくり、利用者の状況や意向等に柔軟に対応する取り組みが行われている。職員間で検討を重ねながら、利用者の意向に合わせた遠方への外出支援の取り組みも行われている。ホームの運営母体が医療機関であることで、医療面での支援が充実していることがホームの特徴でもある。利用者の健康状態等に合わせた、ホーム職員による受診支援や急変時にも医師及び看護師と柔軟な連携が行われていることで、利用者や家族の安心感にもつながっている。ホームの建物は平屋の和風の造りとなっており、木の良さを活かしたりリビングや居室がつくれ、利用者にとっては過ごしやすい雰囲気となっている。他にも、玄関先に手作りのしめ縄を飾ったり、庭にはヤギを飼育する等の取り組みも行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の表示はされている。理念を大切にしてい日々の利用者様との生活を作っている。	利用者本位での支援を行うことを目指した内容の理念を掲げており、理念を玄関ホールに飾り、日常的な意識につなげている。また、カンファレンスの実施時には理念の内容を振り返り、理念に即した支援に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のボランティアの方にホームに足を運んで頂いている。 また地域の行事や盆踊りに参加している。	地域の方との交流も徐々に深まっており、地域の祭事に合わせてホームに寄ってもらう等の交流が行われている。また、ホームの向かいにある関連の医療機関でも地域交流が行われており、ホームからも利用者に参加する機会をつくっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域での認知度が十分ではない。 これから相談に乗れる場として認知してもらえるように努めていく。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で利用者様やサービスの状況、取り組み等を報告し、感想・意見をサービスの向上に活かしている。	会議の際には、ホームの状況を詳しく報告しており、毎回出席している市職員をはじめ、出席者にホームへの理解を深めてもらう取り組みが行われている。また、今年度より会議の内容を欠席の家族にも報告する取り組みを行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議で事業所の実情を報告し、ケアサービスの相談をしたり、協力関係を築いている。	市担当部署とは定期的な運営推進会議や毎月の運営状況の報告等を通じて情報交換の機会がつけられている。また、市担当部署や地域包括支援センターとは、関連の医療機関を通じた連携も行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束行為について理解している。身体拘束をしない事が当たり前として意識してケアしている。	身体拘束を行わない方針で支援が行われており、ホーム内は開放的な雰囲気であり、職員間で連携した利用者の見守りが行われている。利用者の状況にも合わせた対応も行われており、毎月の職員間での現状の確認が行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議などで虐待の危険性について話し合い防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している利用者さんがみえるが理解は乏しい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者様、家族が不安や疑問点にも十分な説明をして同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様や家族等からの意見、要望を反映できるよう全職員が情報を共有している。家族とは面会時など話す機会をもうけている。	家族との交流の機会をつくり、要望等の把握に取り組んでいる。家族からの要望等には、管理者の他にも運営法人の幹部職員も対応することを明示しており、柔軟に対応する体制がつけられている。また、毎月のホーム便り「ひいらぎの生活」を作成している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全職員が日常的に情報、意見交換している。また、会議での話し合いも設けている。報連相ノート・要望提案ノートを活用している。	ホームでは、毎月の職員会議はユニット合同で実施している。日常的にも職員間で情報交換を行う時間を設けており、職員からの意見等をホームの運営に反映する取り組みが行われている。また、職員間で役割分担を行う取り組みも行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の働き方を尊重している。 職員が働きやすい環境になっていると思うが向上心を持って働けるよう整備しているかは分からない。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修への参加や案内を掲示し参加できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	学生の実習を受け入れたり、勉強会などに参加しサービスの質の向上に努めている。他法人と年に一回勉強会を開いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前から情報収集し職員で共有して意見交換し、安心してサービスを受けて頂く体制を整えている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に家族等が不安なこと、要望等に耳を傾けて常に話す合う機会を設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネージャーとも相談の上、他のサービス利用の可能性も含め話し合っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	双方向の関係を築けるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の絆を大切にしつつ共に本人を支えている関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも来所して頂けるような雰囲気を行くっている。	ホーム内に共用の和室が用意されていることで、利用者の入居前からの関係の方がホームに訪問して、一緒に和室で過ごしている方もいる。家族の協力も得ながら、行きつけの美容院に出かけている方や身内の方の墓参り等に出かけている方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士が関わり合い、支え合って生活が送られるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も必要に応じて相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望・意向を把握し、できるかぎりくみ取るように努めている。	職員間で利用者を担当する取り組みも行いながら、利用者の意向等の把握に取り組んでいる。毎月のユニット合同の職員会議の際には、利用者のカンファレンスも実施しており、利用者の意向等を職員間で検討し、日常の支援につなげる取り組みが行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴シートや家族からできるだけ多くの情報を収集し共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員同士の情報交換や生活記録をとって、現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	プラン会議でモニタリングの結果を反映しケアプラン作成に役立てている。	介護計画は3か月で見直しが行われており、変更点を色を変えて表示する等、職員間で支援内容を共有する取り組みが行われている。支援内容を日常生活に合わせて作成していることで、定期的なモニタリングにつなげる取り組みが行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録をとって現状把握に努めている。連絡ノートを活用し情報共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況によって、柔軟に対応できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議などを通じ地域資源の把握に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後も本人や家族の希望・状況によりそれぞれの医療機関に受診され連携している。	医療機関を運営母体としていることもあり、定期的及び随時の医療面での連携が行われており、利用者の健康状態等に合わせた柔軟な支援が行われている。また、ホームの向かいに関連の医療機関があることで、利用者の急変時等にも柔軟な対応が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的に連絡・訪問し情報提供できている。また、緊急時の連絡・対応の体制もしっかりしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時できる限り面会して利用者様の状態の把握、病院関係者との情報交換をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化が予想される時は、本人・家族としっかり話し合い終末期について、医師、看護師も交えて説明することになっている。	利用者の看取り支援にも柔軟な対応が行われており、利用者及び家族の意向にも合わせながら、その方が望む最期を支援する取り組みが行われている。家族との話し合いを行いながら、入院対応に変更する等、利用者の段階に合わせた支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者様の急変や事故発生時に備えて、対応・体制マニュアルが整えてある。訓練を定期的に行う必要がある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急対応マニュアルを作成し、年に2回避難訓練を実施している。	年2回の避難訓練の際には、夜間を想定した訓練や通報装置の確認等の対応が行われている。関連の医療機関との非常災害を想定した対応や水害想定での取り組みも行われている。また、ホーム内に水や食料等の備蓄品の確保が行われている。	ホームでも関連の医療機関との連携をはじめ、様々な災害を想定した対応が行われている。地域の方との連携については継続的なテーマでもあるため、地域の方との継続的な関係づくりの取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊重し、言葉掛けに配慮している。	基本理念に利用者本位の支援を行うことを掲げてあり、利用者への言葉遣い等を意識する取り組みにつなげている。利用者への対応に関して、管理者からも注意喚起等が行われている他にも、独自の振り返りシート等も活用しながら意識向上につなげている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できるよう声掛けに注意(誘導しない・ゆっくり時間を使うなど)している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	可能な限り利用者様の思いや生活ペースを大切に、その人らしい生活が送れるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様個々にあった身だしなみやおしゃれができるよう支援している。月に一度美容師が来てくれる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	何が食べたいなど聞いたり一緒にメニューを考えたりしている。 食事の準備・食器洗い・食器拭きを行っている。	その日の食材の状況や利用者の希望等にも合わせてメニューを考えており、利用者もできることに参加している。専門の魚屋の方の協力を得た、魚料理の提供が行われており、利用者の楽しみにつながっている。また、職員も利用者と一緒に食事を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量を把握して個々の適正量をすすめている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛け・誘導・援助をしている。就寝時は義歯をポリドントに浸けて消毒している。 歯科衛生士による口腔衛生管理を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄ができるように排泄チェック表からパターンをみて時間でトイレ誘導したりしている。	利用者全員の排泄記録を残し、日常的に職員間で情報を共有しながら、一人ひとりに合わせた排泄支援につなげている。昼間と夜間で排泄方法を検討したり、医師、看護師と医療面での連携を深めながら、トイレでの排泄の継続につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事量、水分量に注意し、便秘の予防をしている。ホーム内外を散歩したりなどし運動への働きかけをしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	出来る限り利用者様の希望やタイミングを把握し、見計らって入浴して頂いている。職員の都合で曜日や時間帯が限定されてしまっている。	利用者が週2回入浴できるように支援が行われており、入浴を拒む方についても、職員間で声かけを行う等、定期的な入浴につなげる取り組みが行われている。また、身体状態の重い方に対応した入浴設備の設置や季節に合わせた入浴も行われている。	ホームでは、利用者が週2回の入浴ができるように支援が行われているが、様々な事情等により入浴の間隔が開いている状況でもあるため、入浴支援に関するホームの継続的な検討にも期待したい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	活動と休息のバランスみてを本人が安心して、過ごせるよう支援している。いつでも居室で休める環境である。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の支援、症状の変化の確認に努めている。薬の目的や副作用を理解し必要のないものはなくしていく。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に合った生活ができるように日々の変化など職員間で情報交換し利用者様が楽しんで過ごして頂ける環境作りに努めている。季節の行事を大切にしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別であったり、複数であったりと一人ひとりの希望を把握して買い物や散歩に出かけ、家族にも協力をお願いしている。誕生日などは個別での外出支援を行っている。	ホーム周辺を散歩したり、関連の医療機関にある喫茶に出かけ、季節に合わせた外出行事も行われている。また、ホームでは利用者の意向に合わせて県外への外出が行われた際には、ホームからも職員が外出支援する取り組みが行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望がある利用者様には所持して使ってもらっている。職員がしっかり把握している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	常識的な時間はあるが、電話は自由に使用できる。本人や家族の希望する時に使用できる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気を大切にしている。また、季節感を感じて頂くよう飾り付けや生け花もしている。	ホーム内は木のぬくもりを大切にした空間となっていることで、温かみのあるアットホームな雰囲気がつくられている。また、庭にはヤギが飼育されており、利用者とのふれあいの機会にもつなげている。また、玄関には大きなしめ縄が飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	中庭や玄関、廊下などでくつろげるよう、ベンチを置いたり、利用者様同士でくつろげる空間を作っている。 和室も用意してある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人の使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室には、利用者の入居前からの家具類の持ち込みが行われており、利用者や家族の意向にも合わせた居室づくりが行われている。また、ベッドについてはホームで設置しているが、利用者の中には布団を敷いて生活している方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりのできること、できないことを把握し安全に留意しながら自立した生活が送れるよう支援している。		